



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第14号
(最終)

令和4年11月2日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



無袋ふじは肥大、着色良好、収穫は遅れずに！
病虫害被害果が混入しないよう選別の徹底を！！
野ネズミ対策、雪害防止対策は万全に!!!

I 概要

無袋ふじは全般的に肥大、着色が良く、仕上がり良好である。

ふじは収穫が遅れるほどつる割れの発生量が増加し、裂開の程度が大きくなる。また、貯蔵後の内部褐変の発生が懸念されるので、遅くとも11月15日までに終える。

果実疫病の感染を防ぐため、果実に泥が付着しないように注意する。収穫した果実は長く野積みをしない。

炭疽病、輪紋病、シンクイムシ類などの被害果は健全果に混入しないよう徹底して選別する。

野ネズミ対策、雪害防止対策をしっかりと行う。

マメコバチの増殖を図るため、巣筒の更新や繭の洗浄などの管理や準備を適切に行う。

報道機関用提供資料	
担当課	りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 白川 裕
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5092
報道監	農林水産部 次長（農商工連携推進監）成田 澄人 内線 4967

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

II りんご生産情報

1 果実肥大、果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

11月1日時点のふじの果実肥大は、平年並から平年を上回っている。

○果実肥大（11月1日現在、横径cm、平年比%）

地 域	年	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	9.3
	平 年	8.9
	前 年	9.0
	平年比	104
青森市浪岡北中野 (東青地域県民局)	本 年	9.3
	平 年	8.6
	前 年	—
	平年比	108
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	8.7
	平 年	8.9
	前 年	8.6
	平年比	98
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	9.2
	平 年	8.9
	前 年	8.9
	平年比	103
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	8.9
	平 年	8.7
	前 年	8.7
	平年比	102

注 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測は調査データ

(2) 果実熟度

10月31日現在、無袋ふじは平年値と比較して、ヨード反応、着色指数、蜜果率及び蜜程度は同程度、硬度、糖度及び酸度は低い。総合的に見て、熟度は進んでいる。

○ふじ（無袋）の熟度の進み

（調査月日：10月31日）

地 域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (lbs)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応	蜜果率 (%)	蜜程度
黒 石 (りんご 研究所)	本年	376	3.6	14.3	13.3	0.292	2.1	100	1.8
	平年	349	3.5	14.8	14.2	0.384	2.2	94	1.7
	前年	352	3.3	13.8	14.8	0.329	2.5	100	1.9

注1 平年：2001年～2020年の20か年平均

2 着色指数：0～5（大きい数値ほど着色良好）

3 ヨード反応：ヨードでんぷん反応指数0～5
（小さい数値ほどでんぷんが少ない）

4 蜜程度：0～4（大きい数値ほど蜜入りが多い）

(3) ふじの果実形質調査結果

10月17日、18日に実施したふじの果実形質調査の結果では、最大横径から換算した玉別分布割合は、36玉以上の割合が約60%、40玉以下の割合が約40%であった。平均着果率は31.1%で前年を上回っていた。

○ふじの玉別分布割合、平均横径、着果率（全県）（調査月日：10月17日、18日）

区分	玉別分布割合（%）					平均横径 (mm)	着果率 (%)
	32玉以上	36玉	40玉	46玉	50玉以下		
本年	33.4	26.2	29.7	5.7	5.0	89.2	31.1
前年	14.8	21.3	43.0	13.6	7.3	87.1	30.9

注1 調査地点：30地点（津軽26地点、県南4地点）

2 玉別横径：32玉以上（92mm以上）、36玉（91～88mm）、40玉（87～82mm）、46玉（81～79mm）、50玉以下（78mm以下）

(4) 作業等の進み（10月31日現在）

有袋ふじの収穫は終盤を迎えており、王林、無袋ふじの収穫が行われている。

2 作業の重点

(1) 無袋ふじの収穫

収穫が遅れるほどつる割れの発生量が増加し、裂開の程度が大きくなる。また、貯蔵後の内部褐変の発生が懸念されるので、遅くとも11月15日までに終える。

ふじ（無袋）の収穫時の標準指標

硬度 (lbs)	糖度	ヨード反応	蜜入り程度	食味
13～16	13.5%以上	2以下	2以上	4以上

注 食味：指数1（未熟）～5（非常に良好）

(2) 果実の樹上凍結対策

気温がマイナス3℃を下回ると果心部まで凍結する可能性が高い。

樹上凍結した果実は、自然解凍した後に速やかに収穫し、凍結していない果実と区別して出荷・流通させる。

(3) 山選果の徹底

シンクイムシ類の被害果を流通させないために、収穫した果実は、選果時に徹底して選別する。

本年は、炭疽病、輪紋病、すす斑病、すす点病の発生が見られる。選果の際には腐敗果だけではなく、斑点の生じた果実が混入しないように注意する。

また、日焼けやさび、つる割れの発生が見られるので、出荷先の基準により選別・出荷する。

(4) 病虫害対策

ア 果実疫病（おそ疫病）

収穫は降雨時に行わない。やむを得ず収穫する場合は、果実に泥が付着しないように注意する。地面に落ちた果実は収穫した果実に混入しない。収穫した果実は長く野積みをしていない。

イ 腐らん病

収穫時につる折れ、つる抜けとして残ったつるから病原菌が侵入するので、果台に残らないように丁寧に収穫する。残った場合は必ず果台から取り除く。

発生が多い園地では、ふじの収穫後のできるだけ早い時期にベフラン液剤25の1,000倍、トップジンM水和剤1,000倍、ベンレート水和剤2,000倍のいずれかを必ず散布する。

ウ 黒星病・褐斑病

菌密度を低下させるため、積雪前に被害落葉を除去するかすき込む。なお、落葉収集機を利用すると被害落葉を効率的に収集できる。

エ シンクイムシ類

被害果は見つけ次第、適切に処分する。

(5) 風害防止対策

強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(6) ひょう害対策

被害が見られた場合でも、生食での販売が可能な果実については通常どおりの管理を行う。

収穫した果実は、果実腐敗の発生を抑えるため、速やかに冷蔵庫に搬入する。

(7) 大雨に対する事後対策

水に浸かった果実は区別して収穫する。

(8) 野ネズミ対策

苗木や若木、わい性台樹は、野ネズミの被害を特に受けやすいので、食害防止対策を徹底する。防止効果の高い時期は積雪前と融雪後である。

ア 被害の回避

(ア) 園地を清掃し、果実など餌となるものを排除する。

- (イ) 幹の周囲を耕起し、野ネズミの巣を壊す又は巣作りを防ぐ。
- (ウ) 幹に地上1 mくらいの高さまで金網や合成樹脂のプロテクター、肥料等の空袋など防護用の被覆資材を巻く。
- (エ) 忌避剤による防止
 - ① 樹幹への処理（アンレス、キヒゲン）
 - ② 樹冠下への処理（フジワン粒剤）
- (オ) 雪の踏み固め及び枝の掘上げ
 - 2月以降、数回幹の周りの雪を踏み固める。雪中に埋まった枝は掘上げておく。

イ 駆除

- (ア) ワナなどの利用
 - 金網製の生け捕りワナ、バネの力で捕らえる弾きワナ、粘着シートなどを利用する。
- (イ) 殺そ剤の利用
 - 園地の隣接する農家同士が共同で広範囲に渡って実施すると効果は高まる。

(9) 雪害防止対策

仙台管区气象台発表の寒候期予報によると、冬の降雪量は、東北日本海側ではほぼ平年並と見込まれているので、園地の積雪量に応じて対策を行う。

ア 根雪前の対策

【苗木・幼木】

- ・主幹や枝をひもなどで結束、特に主幹延長上の新梢も支柱に結束する。なお、雪の沈降力でひもがずれて落ちないように、きつく結束する。

【わい性台樹】

- ・枝の中央部からやや先を枝先が上向きになる程度まで吊り上げる。
- ・不要な下枝などは剪去する。

【普通台樹】

- ・雪害を受けそうな枝に支柱を入れるとともに、不要な枝を大枝単位に剪去する。また、樹上に雪が積もりにくくなるように、徒長枝は剪去し、切り口に塗布剤を塗る。
- ・裂開の生じている樹は、カスガイやボルトで補強する。

イ 積雪期間中の対策

【普通台樹】

- ・冠雪による被害防止のため、雪が軽いうちに降ろす。
- ・雪中の枝先は、雪が新しいうちに抜き上げる。
- ・融雪期に入ったら随時見回り、枝を引き上げる。
- ・雪の沈降によって裂開及び折損しそうな枝で不要なものは、早めに剪去する。

【わい性台樹】

- ・枝の掘り上げを行う。
- ・下枝部分の雪を踏み固める。

ウ 融雪促進剤の利用

- ・事前に融雪促進剤を園地に運搬しておく。
- ・2月上旬以降数回にわたり、晴天が数日続く日を選んで融雪促進剤を散布する。

(10) 冬期間に行うマメコバチの飼養管理

近年、マメコバチの巣筒を長年使ったり、巣箱を園地内に放置していることにより、マメコバチの数が減少している。マメコバチの増殖を図るため、冬から早春にかけての管理や準備を適切に行う。

ア 巣筒の更新

コナダニなどの天敵類が増加しないように、巣筒を更新する。

巣筒には内径6～6.5mmのアシガヤを使用し、長さ25～30cmで切り口が斜めになるように鋭利な刃物で一本ずつ切る。その際、アシガヤの節が出入口近くにならないように注意する。

イ 繭の洗浄

2～3月頃に、アシガヤを割って繭を取り出し、繭の表面についたコナダニや汚れを落とすために洗浄する。

【洗浄方法】

- ① 洗い桶などに入れた冷水に繭をつける。3分間ほどかき混ぜて繭を水になじませる。
- ② 網杓子で繭をすくい上げてザルに移す。冷水を入れたボウルにザルを入れ、ハケで繭を網目にこすりつけながら、3分間ほど洗う。
- ③ ザルをボウルから取り出し、繭を3分間ほど流水に当ててかき混ぜながらすすいでゴミを落とす。

【繭の乾燥】

大きな箱などに新聞紙や布を敷き、水をよく切った繭を重ねないように並べ、気温3～10℃で日光の当たらない場所に置いて乾燥させる。表面が乾燥したら、菓子箱などの保存容器に入れて冷暗所で保管する。

ウ 放飼時期調整のための巣箱の冷蔵庫保管

4月上旬頃、筒内でマメコバチが動き始め、カチカチと音がするようになったら、0～5℃の冷蔵庫に保管する。

(11) 酸性土壌の改良

酸性土壌を改良する場合は、土壌分析結果に基づき、収穫作業終了後に改良資材を必要量施用する。なお、土壌分析の依頼はJA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等で受け付けている。

3 一般作業

(1) 園地清掃 (2) 堆肥づくり

《 秋の農作業安全運動展開中！ 》

機械を使って作業を行う際は、焦らず、急がず、慎重に、を基本に事故のないよう十分注意しましょう。はしごの上で作業する時は、足場がしっかり安定しているか確認するとともに、天板の上には乗らないようにしましょう。園地に出かける際は、携帯電話を必ず持参し、家族などに行き先や帰宅時間を伝えてから出かけるようにしましょう。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認しましょう！

園地を見回るなど、りんごの盗難に注意しましょう！

令和4年りんご生産概況は11月30日（水）発行の予定です。